

石油連盟の概要 2025

Petroleum Association of Japan



事業内容

Activities

石油は現在でも一次エネルギー供給の最大シェアを占め、わが国の産業活動や国民生活にとって、欠くことのできない重要な基礎物資ですが、必要とする原油のほぼ全量の中東地域をはじめとする産油国から輸入しています。このため、石油製品を安定的かつ効率的に供給することは、わが国のエネルギー政策の中心的課題です。

一方、世界的に気候変動対策の動きが加速し、日本でも2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を目指すことが宣言されました。これを受けて、石油連盟では「石油業界のカーボンニュートラルに向けたビジョン(目指す姿)」を策定し、安定供給体制の強化と気候変動問題への積極的な取り組みを通じて「持続可能なエネルギー」を社会に供給し、社会全体のカーボンニュートラル実現の貢献に向けて、様々な取り組みに挑戦しています。

石油連盟(Petroleum Association of Japan)は、1955年11月、わが国の石油精製・元売会社、すなわち、原油の輸入・精製、石油製品の全国的な販売を行っている企業の団体として創立され、現在10社の会員会社で構成される基幹の産業団体です。石油連盟は、石油業の健全な発達を図り、もって国民経済の持続可能な発展に寄与することを目的として、下記の事業を行っています。

The Petroleum Association of Japan (PAJ) was established in November 1955 as a private-sector, non-profit industry association made up of domestic petroleum refiners and primary distributors. At present, PAJ consists of ten member companies. PAJ is aiming to achieve the healthy development of the petroleum industry and contribute to the sustainable development of the national economy, primarily through the activities described below.

1

石油に関する知識の啓発および普及宣伝に関すること

Disseminating information and conducting PR related to petroleum

2

石油業に関する意見の発表および建議に関すること

Expressing opinions related to the petroleum industry

3

内外石油事情の調査研究および統計に関すること

Carrying out research and study, and statistics activities related to petroleum

4

石油に係る気候変動問題およびカーボンニュートラルの調査研究に関すること

Carrying out research and study activities on the effects of petroleum on climate change issues and on carbon neutrality

5

大規模石油災害対応体制整備事業等補助事業に関すること

Undertaking government-subsidized programs, such as the “Major Oil Spill Response Program”

6

会員会社相互の連絡、融和および親睦に関すること

Improving communication among member companies to cultivate a sense of community

7

その他本連盟の目的を達成するために必要なこと

In addition, carrying out programs that lead to achieving the objectives of PAJ

※石油には、合成燃料(e-fuel、SAF等)、水素、その他CCUS等のカーボンニュートラル関連技術により低炭素化・脱炭素化した新燃料等を含みます。

* “Petroleum” referred to above includes new fuels, such as e-fuels, hydrogen, and CCUS, that have realized low carbonization or decarbonization through technology related to carbon neutrality.

役員

Executives

石油連盟の最高意志決定機関は総会、理事会です。理事会は会員会社の代表者で構成され、会長・副会長・専務理事・常務理事は理事の中から理事会で選任されます。



会長

President

木藤 俊一 KITO Shunichi

出光興産株式会社 代表取締役会長
Representative Director, Chairman
Idemitsu Kosan Co., Ltd.



副会長

Vice-President

宮田 知秀 MIYATA Tomohide

ENEOSホールディングス株式会社
代表取締役社長
Representative Director, CEO
ENEOS Holdings, Inc.



副会長

Vice-President

西 克司 NISHI Katsushi

コスモ石油株式会社 代表取締役社長
President, Representative Director,
Chief Executive Officer
Cosmo Oil Co., Ltd.



専務理事

Executive Managing Director

鈴木 英夫 SUZUKI Hideo



常務理事

Managing Director

及川 洋 OIKAWA Hiroshi

理事 Managing Directors

榎 啓 MAKI Hajime

東亜石油株式会社 代表取締役 社長執行役員
President and CEO, Representative Director TOA OIL CO., LTD.

寺本 光司 TERAMOTO Mitsuji

鹿島石油株式会社 代表取締役社長
President, Chief Executive Officer KASHIMA OIL CO., LTD.

山本 堯大 YAMAMOTO Takahiro

太陽石油株式会社 代表取締役社長
President & CEO Taiyo Oil Company, Limited

山本 重人 YAMAMOTO Shigeto

富士石油株式会社 代表取締役社長
President and Representative Director Fuji Oil Company, Ltd.

高山 直樹 TAKAYAMA Naoki

コスモ石油マーケティング株式会社 代表取締役社長
President, Representative Director Cosmo Oil Marketing Co., Ltd.

若澤 雅博 WAKAZAWA Masahiro

キグナス石油株式会社 代表取締役社長
President Kygnus Sekiyu K.K.

飯田 聡 HANDA Satoshi

昭和四日市石油株式会社 代表取締役社長
President SHOWA YOKKAICHI SEKIYU CO., LTD.

小野 森彦 ONO Morihiko

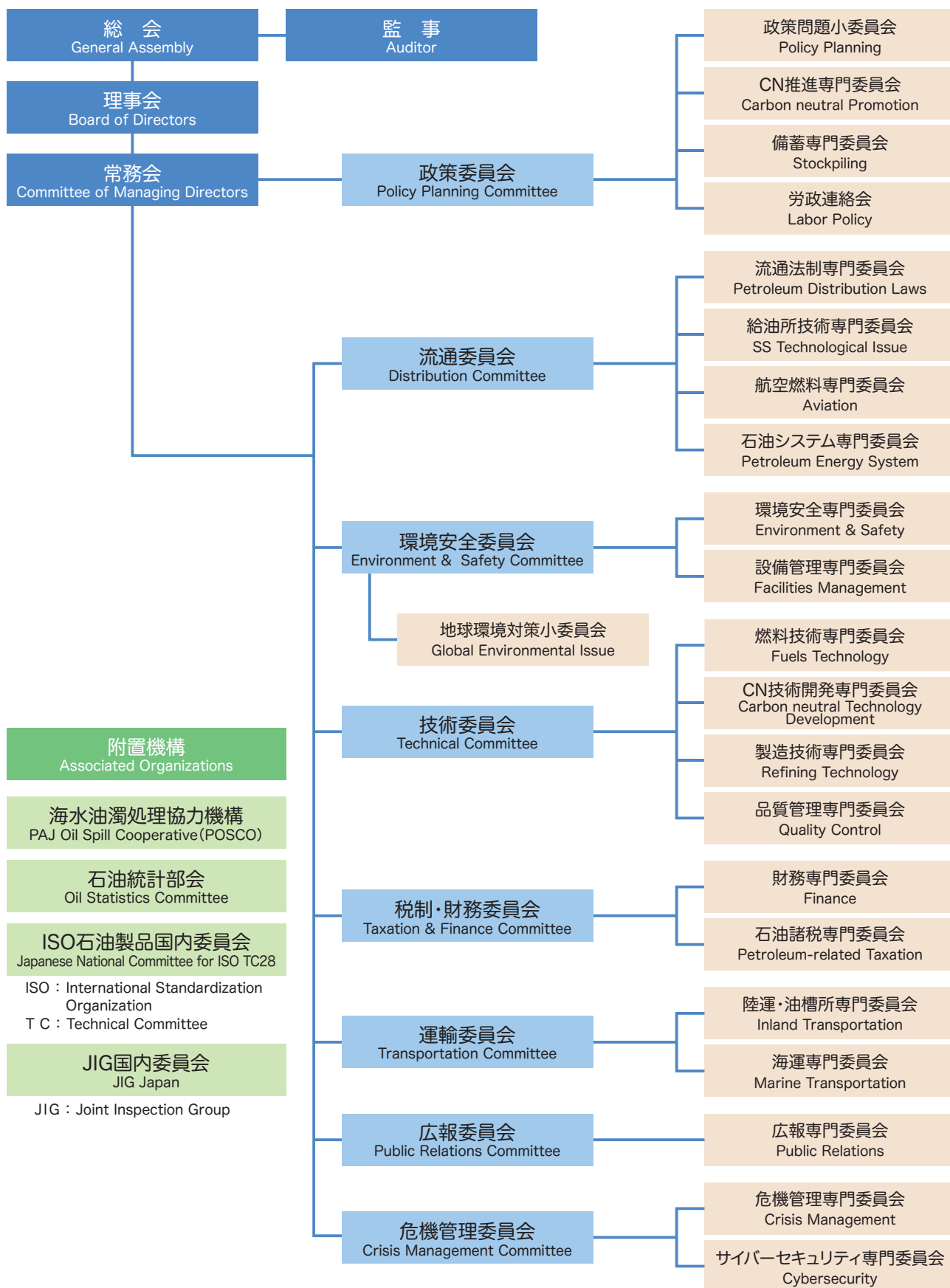
石油連盟 事務局長
Secretary General

※会長・副会長・専務理事・常務理事は理事を兼ねます

委員会の組織

Organization of the Committee

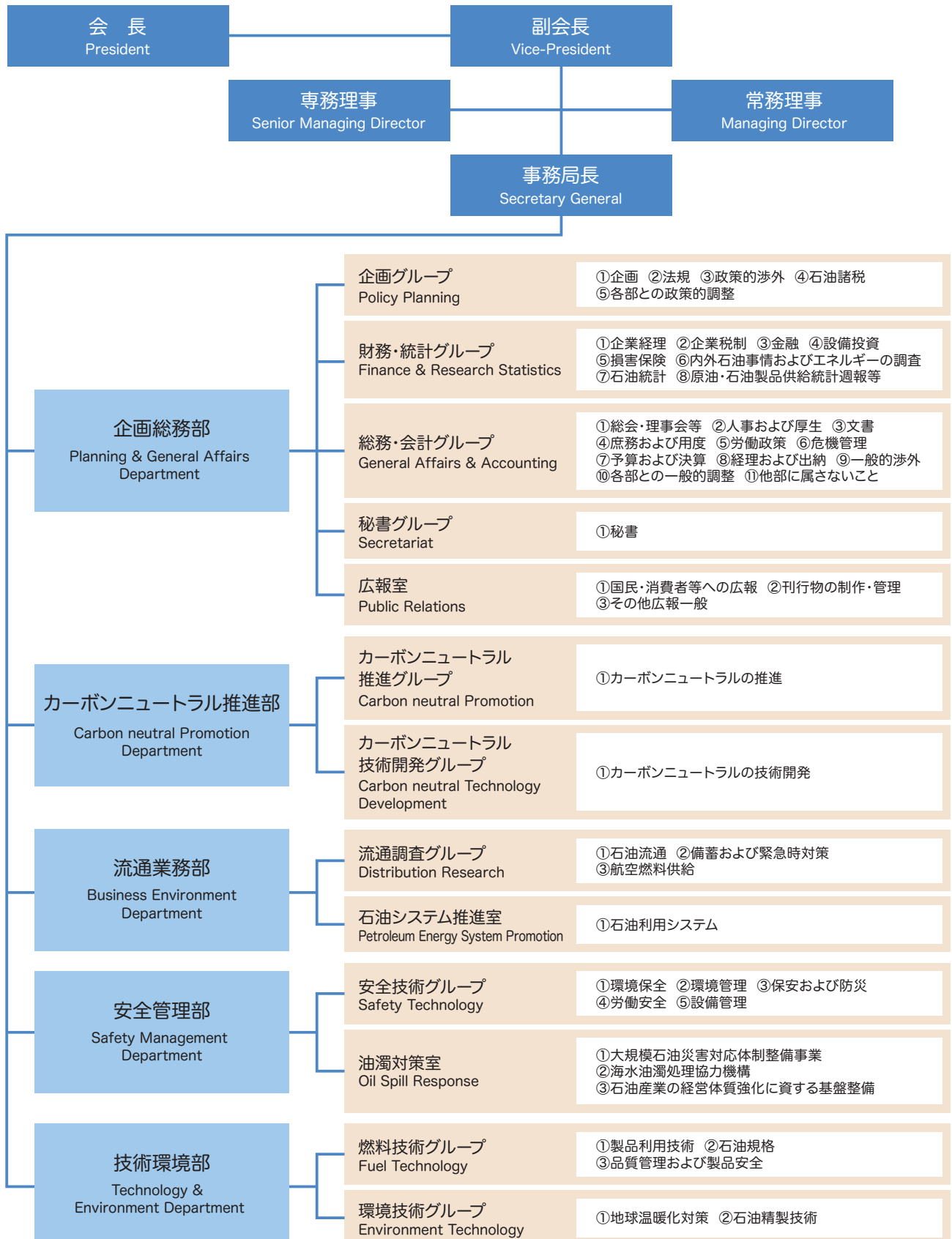
石油連盟は、理事会の下部機構として常務会、8の委員会、22の小委員会・専門委員会を設け、その他に石油連盟会員会社以外の参加・協力を得て組織される4つの附置機構を加えて、全体の委員会組織を構成しています。



事務局の組織と職務

Organization and Responsibilities of the Secretariat

事務局は、5部、13グループ・室で構成され、それぞれ下記の業務を行っています。



*この他に各部にまたがる特定業務を処理するプロジェクトチームが設置されています。

会員会社(10社)

Members



出光興産株式会社 Idemitsu Kosan Co., Ltd.

〒100-8321 東京都千代田区大手町1-2-1 Tel.03-3213-3115(広報)
<https://www.idemitsu.com/jp/>



東亜石油株式会社 TOA OIL CO., LTD.

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町3-1 Tel.044-280-0600(代表)
<https://www.toaoil.co.jp/>



鹿島石油株式会社 KASHIMA OIL CO., LTD.

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-2(ENEOSビル) Tel.0120-56-8704(ENEOSお客様センター)
<https://www.kashima-oil.co.jp/>



太陽石油株式会社 Taiyo Oil Company, Limited

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3(日比谷国際ビル) Tel.03-3502-1601(代表)
<https://www.taiyooil.net/>



富士石油株式会社 Fuji Oil Company, Ltd.

[東京]〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-29(ガーデンシティ品川御殿山) Tel.03-6277-2891(代表)
[袖ヶ浦]〒299-0266 千葉県袖ヶ浦市北袖1番地 Tel.0438-63-7011(総務)
<https://www.foc.jp/>



コスモ石油株式会社 Cosmo Oil Co., Ltd.

〒105-8528 東京都港区芝浦1-1-1(浜松町ビル)※ Tel.0570-783-280(代表)
<https://www.cosmo-energy.co.jp/ja/about/company/group/cosmo-coc.html>



コスモ石油マーケティング株式会社 Cosmo Oil Marketing Co., Ltd.

〒105-8314 東京都港区芝浦1-1-1(浜松町ビル)※ Tel.0570-783-280(代表)
<https://www.cosmo-energy.co.jp/ja/about/company/group/cosmo-com.html>



ENEOS株式会社 ENEOS Corporation

〒100-8162 東京都千代田区大手町1-1-2(ENEOSビル) Tel.0120-56-8704(ENEOSお客様センター)
<https://www.eneos.co.jp/>



キグナス石油株式会社 Kygnus Sekiyu K.K.

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-3-2(大手町プレイスイーストタワー 10階) Tel.03-5204-1600(代表)
<https://kygnus.jp/>



昭和四日市石油株式会社 SHOWA YOKKAICHI SEKIYU CO., LTD.

〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1番地 Tel.059-347-5511(代表)
<https://syskk.co.jp/>

※コスモ石油株式会社とコスモ石油マーケティング株式会社は7/22より下記住所に移転
東京都中央区京橋1-7-1(TODA BUILDING)

石油産業の現状

Overview of the Petroleum Industry in Japan

原油・石油製品(燃料油)輸入量
Crude and products import

1億7011万kℓ (2024年度)
170.1 million kℓ (FY2024)



原油の輸入依存度
Dependence on import

99.7% (2024年度) (FY2024)



製油所数
Number of Refineries

19か所 (2025年3月末現在) (As of March, 2025)



原油処理能力
Refining capacity

311万400バレル/日 (約494,500kℓ/日) (2025年3月末現在)
3,110,400 B/D (As of March, 2025)

資本金総額
Capital Stock

2708億円 (2023年度)
270.8 billion yen (FY2023)



年間売上高
Annual sales

23兆3759億円 (2023年度)
23,375.9 billion yen (FY2023)



石油精製・元売従業員数
Total employment (refining & primary distributing)

約21,200人 (2024年3月末現在)
persons (As of March, 2024)

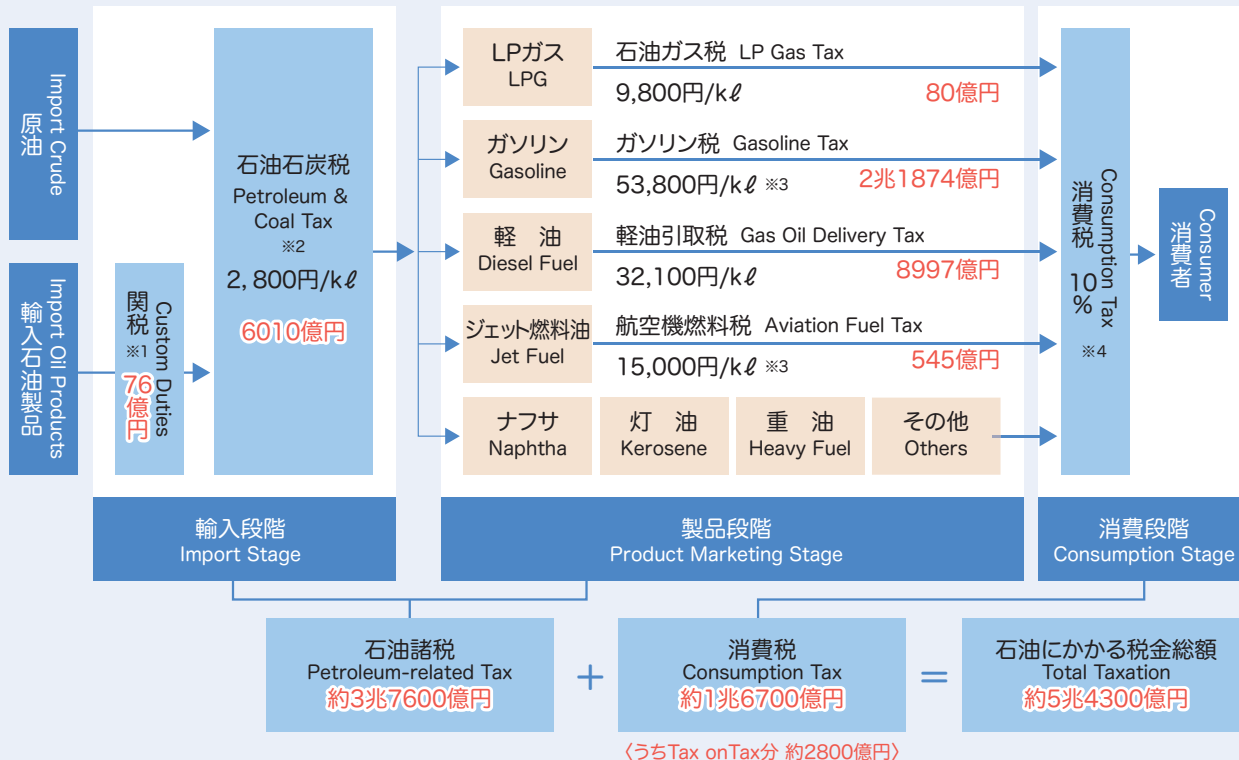


SS(給油所)数
Number of service stations

27,414か所 (2024年3月末現在) (As of March, 2024)



石油にかかる税金(2025年度当初予算) Petroleum-related Taxes (initial budget for FY 2025)



※1 2006年4月より原油関税(170円/kℓ)は撤廃され、石油製品関税のみとなった(関税収入は2023年度輸入実績に基づく石油連盟試算値)

※2 石油石炭税は原油、輸入石油製品、石炭、ガス状炭化水素(国産天然ガス、輸入LNG、輸入LPG等)が課税対象(税収には原油・輸入石油製品以外への課税分が含まれる)

※3 沖縄県にはガソリン税、航空機燃料税(沖縄路線および特定離島路線に対する税率)の軽減措置がある

※4 消費税収は石油連盟による試算値(航空機燃料税、特別徴収義務者からの委託販売にかかる軽油引取税にはTax on Taxはない)

出所:財務省主計局資料、総務省自治税務局資料等

石油連盟は、2022年5月に定款を変更し、事業対象を合成燃料、水素、その他の新燃料等に拡大しました。これに合わせ、石油連盟の新しい取り組みを広くPRするべく、新しく愛称(シンボルマーク)として「Fuel+」を設定し、さらにキャッチフレーズを「サステナブルなエネルギーを社会に」としました。



「Fuel+」(フュエルプラス)に込められた意味

- 今後も石油連盟の主要な事業領域となる「Fuel」(燃料)を掲げ、合成燃料をはじめ、多様な燃料を取り扱っていくことを表しています。
- 石油連盟の事業領域の燃料分野以外への拡がりや、今後供給する燃料にも新たな付加価値を与えていくこと、さらには国民生活・国民経済の発展にも寄与していくことを「+」で表しています。
- これまでの石油連盟のロゴマークに使われていた3色(赤・橙・青)に、カーボンニュートラルやサステナブルな社会に向けた更なる環境対応を象徴する「緑」を加え、新しいステージを表しています。

The PAJ Symbol

In 2022, the Petroleum Association of Japan marked the expansion of business being undertaken not only for petroleum but also into e-fuels, hydrogen, and other new fuels, by establishing “Fuel+” as its new symbol and “Sustainable Energy for Society” as its slogan.

The word “Fuel” represents what will continue to be the primary business of PAJ, but it also represents the diverse fuels, such as e-fuels, that will be handled going forward.

The “+” mark represents the expansion into other business domains, as well as the new value being added to the fuel that is provided, and contribution to the development of the national economy.

石油連盟 Fuel+

サステナブルな
エネルギーを社会に

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2(経団連会館17F)

TEL 03-5218-2305(広報室) FAX 03-5218-2321

Keidanren Kaikan, 1-3-2, Ohtemachi,

Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004

Public Relations

Tel. 81-3-5218-2305 Fax. 81-3-5218-2321

<https://www.paj.gr.jp>

https://twitter.com/paj_sekiren